

## 被災地支援活動報告

### 被災地/災害名

能登／令和6年能登半島地震・令和6年奥能登豪雨

### 支援対象者

全年齢対象

### 記載者

早川 たかし（任意団体 富山・イタズラ村・子ども遊ばせ隊代表）

### 発災・被災状況の概要

2024年1月1日、16時10分、石川県能登半島珠洲市内で発生。地震の規模はM 7.6、輪島市と羽咋郡志賀町で最大震度7を観測。輪島市の観光名所である「朝市通り」では、大規模な火災が発生。200棟以上の住宅や店舗が焼け、およそ5万平方メートルが消失した。

珠洲市などでは、3メートル以上の津波が襲い被害が出た。珠洲市から志賀町にかけては、およそ80キロの範囲で隆起が起こり、ほとんどの漁港は干上がり、機能しなくなった場所もある。特に、輪島市門前町では、およそ5.5メートルに達した。

震源から離れた、富山県氷見市や高岡市伏木、石川県かほく市や内灘町などでは液状化が発生。道路のひび割れや波うち、住宅の傾斜・沈下。マンホールの浮き上がり、泥水の吹き出しなどの被害があった。また、2024年9月には、豪雨災害でたくさんの被害が出た。能登半島地域を中心に河川が反乱し、土砂災害が多発。土砂に家と流されるなどで犠牲者も出し、16人が亡くなった。

2025年10月現在も、たくさんの爪痕が残ったままである。

### 支援開始時期または支援期間

2024年10月～現在も継続中

### 活動状況

2024年6月 穴水視察

2024年8月 輪島、七尾視察ツアー&対話会・輪島朝市通り、周辺視察・NPO法人じっくらあとの“わじまティーンラボ”視察・遊び道具を寄付(NPO法人じっくらあと)

七尾. . JDF能登半島地震支援センターで障がい者の避難状況や困りごとに対する支援についてお話を聞く(JDF災害総合支援本部 被災地支援センター)

ハートランドヒルズin能登 いおりキャンプ場において、金沢のお母さん集団“ヤッテミヨウ”主催の復興緑日に遊びブース出展

皿回しやけん玉、筒けんなどで来場者と一緒に遊んだり、遊びの技を教えたりする。

門前楓の家 復興緑日に遊びブースを出し参加。

2024年10月 能登半島豪雨の被害状況視察(輪島)

2025年5月 ハートランドヒルズin能登 いおりキャンプ場

2025年7月13日 NPO法人カタリバ主催.能登子ども応援フォーラム「地域活動を一緒に作る！仲間づくりのコツ」に参加し、能登内外の団体と情報交換

「能登子ども応援フォーラム」第2回、開催！のとなわね公式note

令和6年能登半島地震・豪雨 被災地子ども支援／活動紹介／認定NPO法人カタリバ

2025年8月 門前楓の家 納涼祭 遊びブース出展

2025年9月 NPO法人冒険遊び場づくり協会主催、能登町遊び場作りで繋がる。

「能登半島ミーティング」参加。

能登町での遊び場の取り組み.遊び場環境について・

日本冒険遊び場作り協会ー遊びあふれる まちへ！

25年10月18日 ハートランドヒルズin能登 志賀町 こどもの家にて、ハロウィンイベントに遊びブース出店

2025年10月25日 キラキラフェスタin内灘(内灘町PTA連合会主催)遊びブース出店

### 現在までの活動で見えた課題

どこともつながりのない団体が、いきなり支援に入ることは難しい。震災における瓦撤去などのボランティア窓口はあるが、子ども支援遊び支援をしようと思うと、つなげてくれる窓口が見つげにくかった。被災地団体への直接交渉は難しい。様々な団体が入り込み、イベントなどをするうえで日程調整なども大変なようであった。

ネットワークが作られていないため個々に行われている活動は、日程が重なるなどし、せっかくだけに行われていても参加者が分散され、利用が少ないこともあった。この部分は同じ活動する他団体も同じ問題意識を持っていた。どうやったら支援に入れるのか？外部支援者となつなぎ、そこの主催のイベントに参加させていただけたことで活動の幅が広がった。(活動を模索する中で、私たちはイベント主催団体が一緒に出店する団体を募集している情報を目にし、そこへアクションしてつながり、そこで出会った団体ともつながり、活動の幅が広がった)

遊び支援に重点を置き活動してきたが、緊急時においてはどうしても遊びは後回しにされてしまう。震災においては、外は瓦礫などで危険な状態、グラウンドや公園などには仮設住宅が立つ。子どもたちの遊び場が奪われてしまうのだ。いろいろな年代が集まる避難所では、子どもたちが元気に声を上げ遊び回ることができない。実際に、子どもたちから遊ぶことを奪われてしまったこと、遊び場が欲しい！と言った子どもの声もアンケートに寄せられている。

「2024年能登半島地震、子どもアンケート～震災から半年、いま伝えたい子どもたちの声」が完成しました／明日のコンパス／セーブ・チルドレン・ジャパン

地震の恐怖、たくさんの我慢・言葉で気持ちを表現することが難しい子どもたちは、不安を内に秘めたまま。命、食・ここが整うまで、子どもたちの心の状態については、なかなか目を向けられないのではないだろうか。しかし、日が経てば経つほど不安や我慢はたまっていく。早くに子どもたちが遊べる環境を作ることが大切だ。そのためには、周りの大人が、その大切さに気づいていなければならない。災害時のピリピリとした状況の中で説明をしても、なかなか受け入れてもらえない。平時から、子どもの遊びについて理解し、災害時にすぐに遊べる空間づくりに動けるような体制をとっておく必要がある。

また、遊び場を作るだけでは不十分だ。そこで子どもたちと一緒に遊ぶ人の存在が必要だ。誰かと一緒に遊ぶという関わりが、子ども自身の安心を生む。そして、親たちは安心して家の片づけや仕事に行けるのだ。でも、それだけでも不十分だ。

子どもたちの安心の核は、やはり家族にあるのではないだろうか。私たちは、親子で一緒に遊ぶ！このことにも目を向けている。イベントなどに、親子で参加していると、最初は一緒に遊ぶことはなく、子どもが遊ぶ様子を親がスマホで撮影していることが多い。私たちは、そこから、親にも遊びを進めるのである。私たちの遊びツールは、皿回しに筒けん・そんな遊びに、次第に親も夢中になって、親が遊ぶ姿に子どもが喜び、お父さん、すごい！お母さん頑張れ！おお～、やったー。いろんな言葉が飛び交い、楽しい気持ちをより共有できるのだ。そんな瞬間は、家族の関係を強め、子どもの安心がさらに高まる。

子どもと一緒に遊ぶ中で、得意げに遊びの技をお母さんに教えている女の子がいた。お母さんは、お腹を抱えて泣き笑いし、悪いことばかりだったけど、お腹が痛くなるくらいこの子が笑わせてくれた。良いことあるかもな・とつぶやいていた。

皿回しにのめり込んだ兄弟の姿に、集中力があつたことにお母さんが大喜びをしていた。

思春期くらいの子で、親子で一緒に遊ぶようには見えなくても、遊びの場での挑戦は、お父さん見て～、お父さんもやってよ！もう少し、やったあ～と会話が弾む。そして、そこにいる人は、みんなが楽しい雰囲気を共有し、やったね！お～と歓声が上がったり、ときにはハイタッチをしたりと盛り上がるのである。

たくさん笑って、いろんな気持ちを共有して、そして感情を爆発して発散できる。きっとその時は、嫌なことも忘れていて、気持ちを切り替えて、また前へ進んでいけるのではないだろうか？そんな瞬間は、災害時にも必要なのではないだろうか？

ホーム／富山・イタズラ村・子ども遊ばせ隊・ワークショップ付き講演／富山市 <https://www.kawaigarizm.net/>（被災地での活動も綴っています）